

〔第9回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

サルコペニアの発症病理と バイオマーカーに関する研究

運動器疾患研究部

細山 徹 副部長

2022年11月15日(火)15時00分～
第1研究棟2階大会議室

サルコペニアは加齢に伴う骨格筋減弱症であり、超高齢社会にある我が国においてその対応は喫緊の課題である。現状、サルコペニアの発症や増悪化のメカニズムの全容は明らかではないが、その機構解明は疾患の予防法や治療法の開発に直結するため、研究の早期進展が望まれている。一方、サルコペニア病態の客観的マーカーや疾患発症の早期マーカーなどの同定も、より正確な診断法の開発や発症予測モデルを構築する上で強く求められている。私たちの研究グループは、サルコペニアの発症病理に関する研究(21-5)とサルコペニアバイオマーカーの同定に向けた研究(21-44)を進めており、前者では特に骨格筋幹細胞の質的・量的変化に着目した研究、後者ではサルコペニアバイオマーカーとしてのビタミンDの可能性(Mizuno, Hosoyama *et al.*, 2022)についてなど幾つかの研究プロジェクトを展開している。本発表では、それぞれの研究課題におけるこれまでの進捗状況を概説するとともに、これらの研究を端緒とした研究の一部も紹介したい。

座長：再生歯科医療研究室 庵原耕一郎 室長
連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)